

PALTEK

(証券コード:7587)

2017年12月期 第1四半期
決算説明資料

2017.5.9 (火)

アジェンダ

- ① 2017年12月期 第1四半期
業績結果
- ② 2017年12月期 業績予想
- ③ 事業の進捗状況

1

2017年12月期 第1四半期 業績結果

連結業績結果

| (百万円) | 2016年第1四半期 | | 2017年第1四半期 | | 増減 | |
|------------------|------------|--------|------------|--------|--------|--------|
| | 金額 | 比率 | 金額 | 比率 | 増減額 | 増減率 |
| 売上高 | 9,431 | 100.0% | 7,734 | 100.0% | △1,696 | △18.0% |
| 売上総利益 | 884 | 9.4% | 1,150 | 14.9% | 265 | 30.0% |
| 販管費 | 758 | 8.0% | 790 | 10.2% | 31 | 4.2% |
| 営業利益 | 126 | 1.3% | 360 | 4.7% | 234 | 185.1% |
| 経常利益 | 124 | 1.3% | 439 | 5.7% | 315 | 253.2% |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 69 | 0.7% | 297 | 3.8% | 228 | 328.4% |
| 1株当たり四半期純利益 | 6.34円 | — | 27.16円 | — | 20.82円 | 328.4% |

主な増減要因

- 売上高の減少は、半導体事業の減少による
- 売上総利益の増加は、仕入先に対して保有する仕入値引ドル建債権の評価額が増加したこと、利益率の低い製品の売上高が減少したことなどによる
- 販管費の増加は、主に人員の増加による

| (百万円) | 2016年第1四半期 | | 2017年第1四半期 | | 増減 | |
|----------------------|------------|--------|------------|--------|--------|--------|
| | 金額 | 比率 | 金額 | 比率 | 増減額 | 増減率 |
| 半 導 体 | 8,937 | 94.8% | 7,193 | 93.0% | △1,743 | △19.5% |
| デ ザ イ ン ス サ ー ビ ス | 444 | 4.7% | 487 | 6.3% | 42 | 9.7% |
| そ の 他 | 49 | 0.5% | 53 | 0.7% | 4 | 8.1% |
| 売 上 高 合 計 | 9,431 | 100.0% | 7,734 | 100.0% | △1,696 | △18.0% |

主な増減要因

- 半導体事業の増加は、メモリ製品が海外メーカー向けに大幅に減少し、FPGAが通信機器や医療機器向けに、汎用ICがオフィス機器向けに減少したことによる

■ 売上総利益率の上昇は、以下が要因

- 【2016年第1四半期】ドル円相場が急速に円高進行したことにより、仕入先に対して保有する仕入値引ドル建債権の評価額が減少し、為替変動の影響額は△126百万円
- 【2017年第1四半期】年初における評価レートが円安に進行したことにより、仕入値引ドル建債権の評価額増加を含む為替変動の影響は+102百万円
- 半導体事業において、売上総利益率の低い案件の売上高が前年同期から減少

| (百万円) | 2016年第1四半期 | | 2017年第1四半期 | |
|-------------------------|------------|-------|------------|-------|
| | 金額 | 対売上比率 | 金額 | 対売上比率 |
| 売 上 総 利 益 | 884 | 9.4% | 1,150 | 14.9% |
| (うち為替の影響額) | △126 | △1.3% | +102 | +1.3% |
| 売 上 総 利 益 (為替の影響を排除) | 1,011 | 10.7% | 1,048 | 13.6% |

■ 売上総利益への影響額

- 為替変動の影響額は、為替レートの変動が緩やかだったため縮小
- 年初における評価レートが円安に進行したことにより、為替変動の影響額はプラス方向に

| (単位:百万円) | 16Q1 | 16Q2 | 16Q3 | 16Q4 | 17Q1 |
|-----------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 為替レートの変動(円) | 120→112 | 112→102 | 102→101 | 101→116 | 116→112 |
| 為替変動の影響(売上総利益) | -126 | -315 | -365 | 277 | 102 |
| 仕入値引債権の評価額変動の影響 | -437 | -657 | -795 | 653 | 128 |
| 調達在庫の為替レート変動の影響 | 310 | 341 | 429 | -375 | -26 |

■ 営業外損益への影響額(期末評価替の影響は含まず)

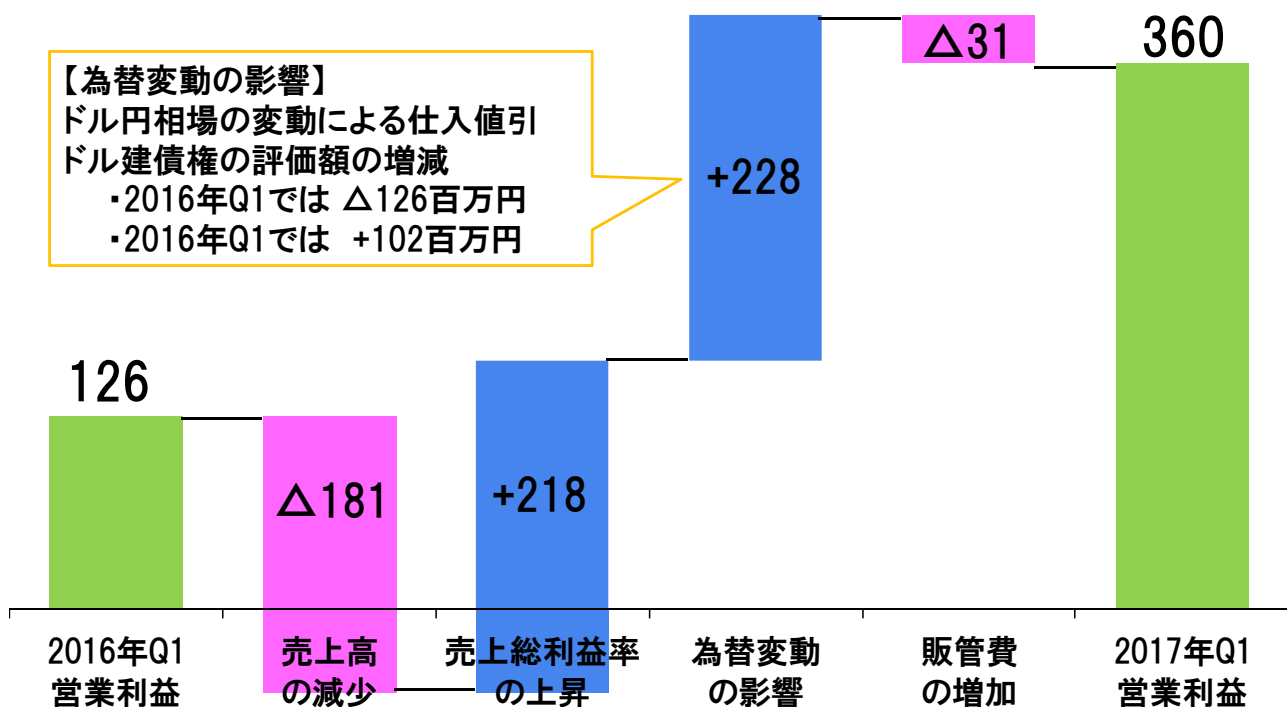
- 買掛金支払時のレート変動の影響は、為替レートの変動が緩やかだったため、縮小

| (単位:百万円) | 16Q1 | 16Q2 | 16Q3 | 16Q4 | 17Q1 |
|----------------------|------|------|------|------|------|
| 買掛金支払時のレート変動の影響(営業外) | 407 | 253 | 211 | -494 | 36 |

- 売掛金受取時のレート変動の影響額は、為替予約のため変動影響が縮小

| (単位:百万円) | 16Q1 | 16Q2 | 16Q3 | 16Q4 | 17Q1 |
|----------------------|------|------|------|------|------|
| 売掛金受取時のレート変動の影響(営業外) | -263 | -218 | -133 | 15 | 25 |

(単位:百万円)

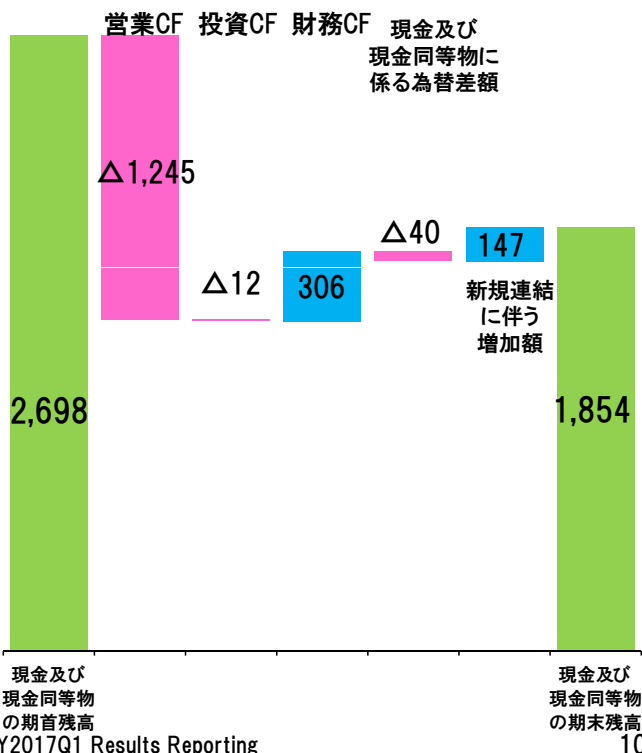


連結貸借対照表の状況

| (百万円) | | 2016.12末 | 2017.3末 | 増減額 | 主な増減理由 |
|----------|---------|----------|---------|-------|--------------------------------|
| 資産内訳 | 現金及び預金 | 2,698 | 1,854 | △844 | |
| | 売上債権 | 7,064 | 6,934 | △130 | |
| | 商品 | 3,094 | 8,179 | 5,085 | 販売時期がずれ、仕入値引前のFPGAの在庫が積みあがったため |
| | その他流動資産 | 2,180 | 1,239 | △941 | 未収入金が減少したため |
| | 固定資産 | 460 | 456 | △4 | |
| 資産合計 | | 15,499 | 18,664 | 3,164 | |
| 負債純資産内訳 | 仕入債務 | 1,615 | 3,990 | 2,375 | 仕入れを増加させたため |
| | 短期借入金 | 3,500 | 3,950 | 450 | |
| | その他流動負債 | 1,220 | 1,368 | 148 | |
| | 固定負債 | 269 | 261 | △7 | |
| | 純資産 | 8,895 | 9,093 | 198 | |
| 負債・純資産合計 | | 15,499 | 18,664 | 3,164 | |

連結キャッシュ・フローの状況

2017年第1四半期のキャッシュフローの動き (百万円)



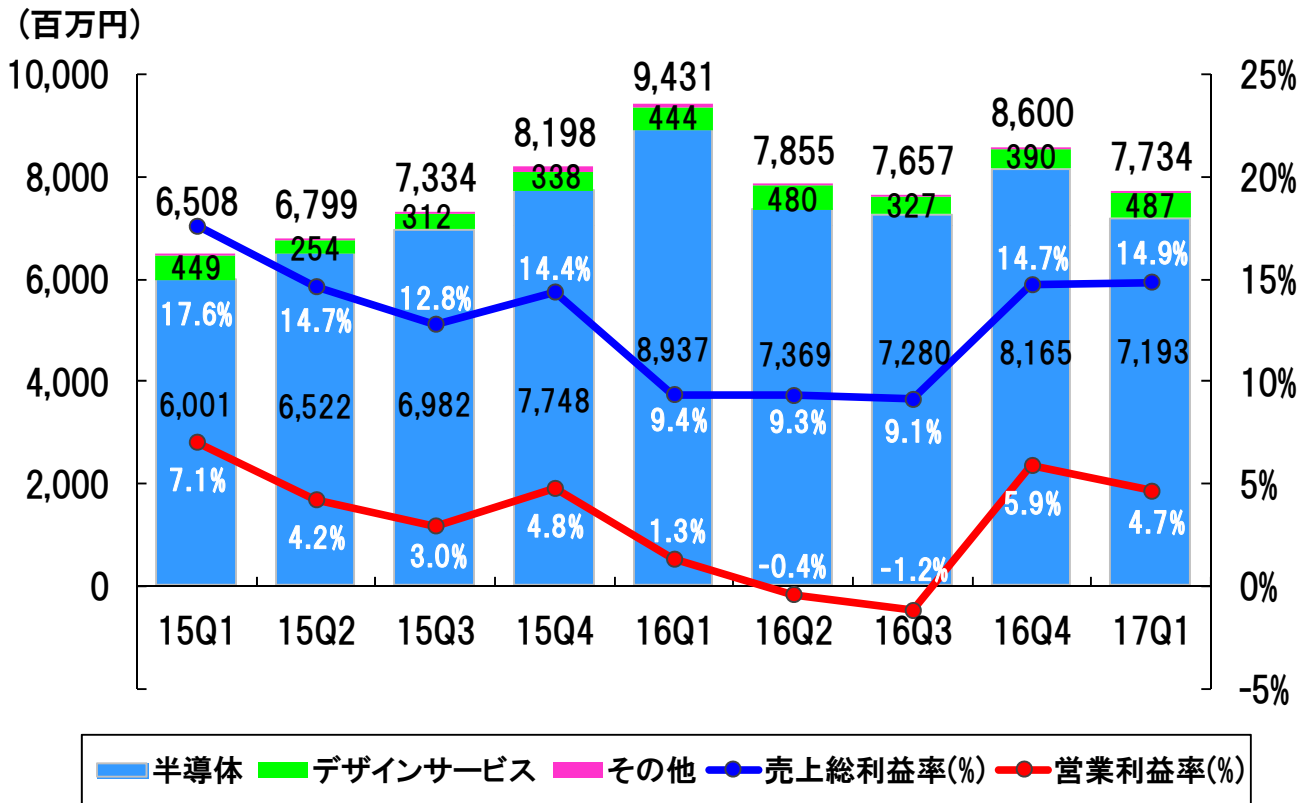
| (百万円) | 2016年 第1四半期 | 2017年 第1四半期 |
|----------------|----------------|----------------|
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 1,199 | 2,698 |
| 営業CF | 626 | △1,245 |
| 投資CF | △1 | △12 |
| 財務CF | △73 | 306 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 1,748 | 1,854 |

2017年第1四半期のキャッシュフローの動き

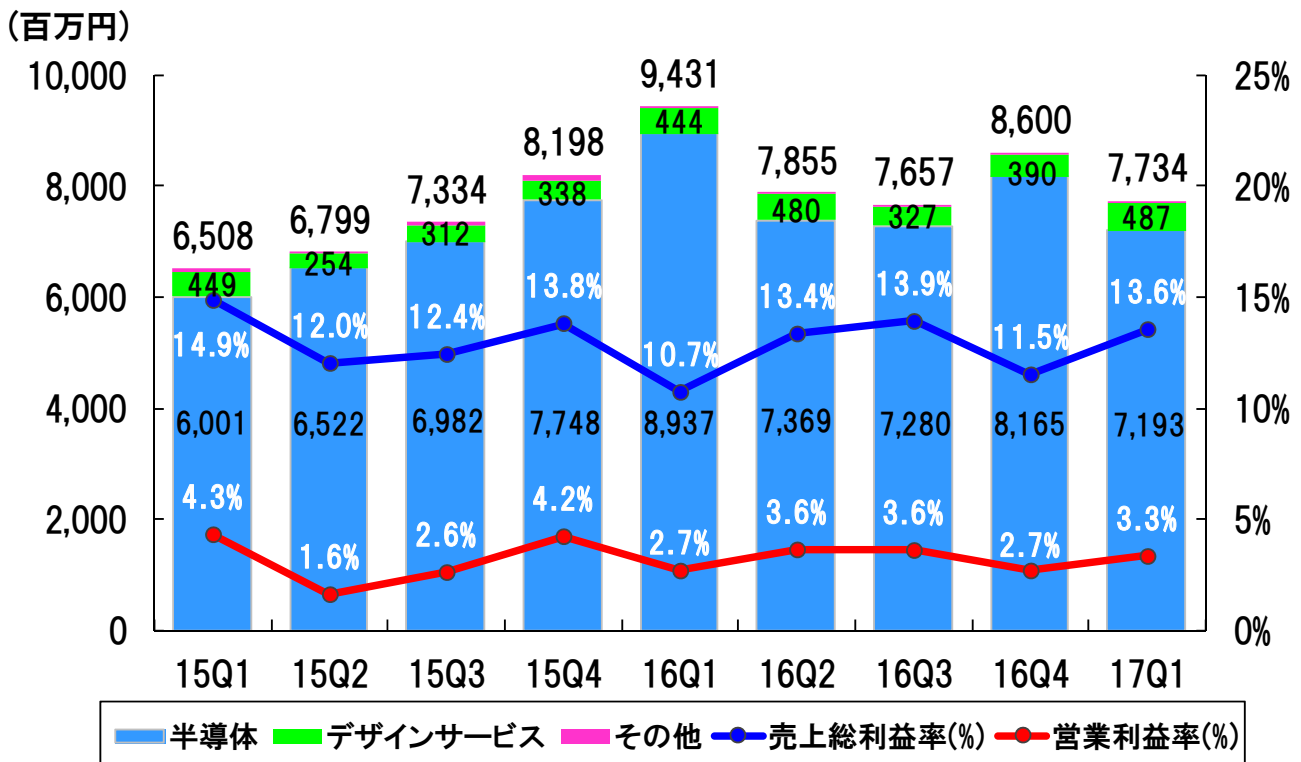
- 営業CF: 税金等調整前四半期純利益を計上し、仕入債務が増加し、未収入金が減少した一方で、たな卸資産が増加したこと等により支出
- 投資CF: 有形固定資産および無形固定資産を取得したことにより支出
- 財務CF: 配当金の支払いを実施した一方で、借入れを実施したこと等により収入



連結業績の四半期推移

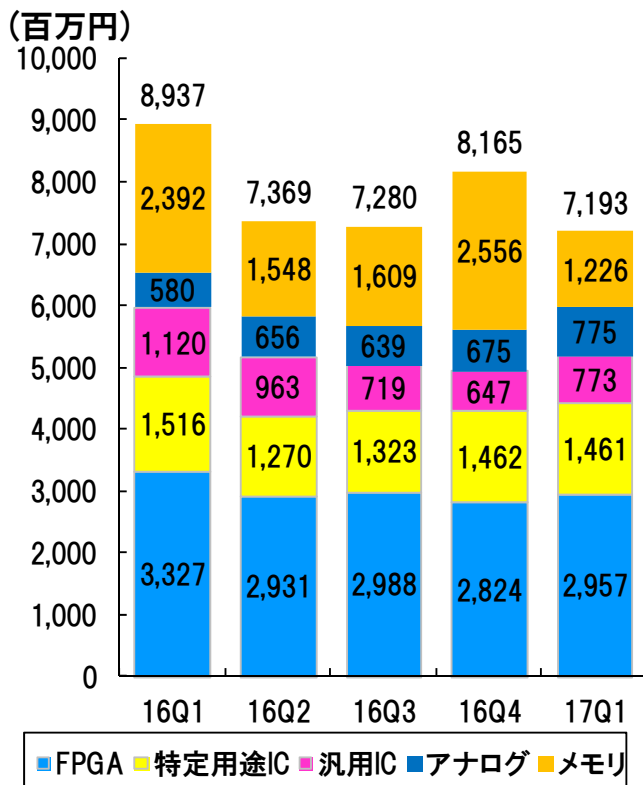


連結業績の四半期推移(為替の影響を除いた場合)



事業別の実績

半導体事業の状況（製品別）

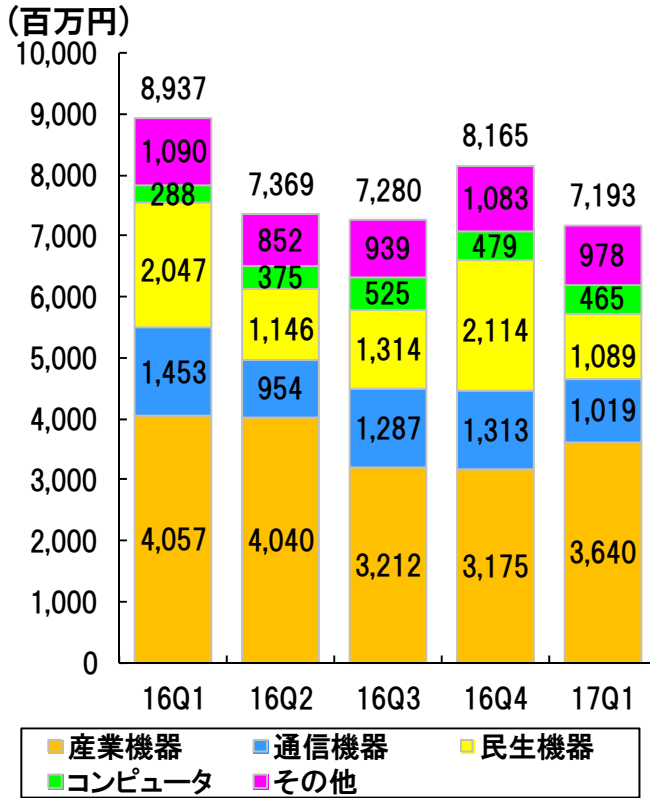


四半期業績の推移

- FPGA**
通信機器、医療機器向けが減少するも、車載向けが増加
- 特定用途IC**
ブロードバンド通信機器向けが減少するも、PC向けのタッチパッド製品や通信インフラ向けなどが増加
- 汎用IC**
オフィス機器向けが増加
- アナログ**
産業機器向けが増加
- メモリ**
民生機器向けが大幅に減少



半導体事業の状況（用途別）



FY2017Q1 Results Reporting

15

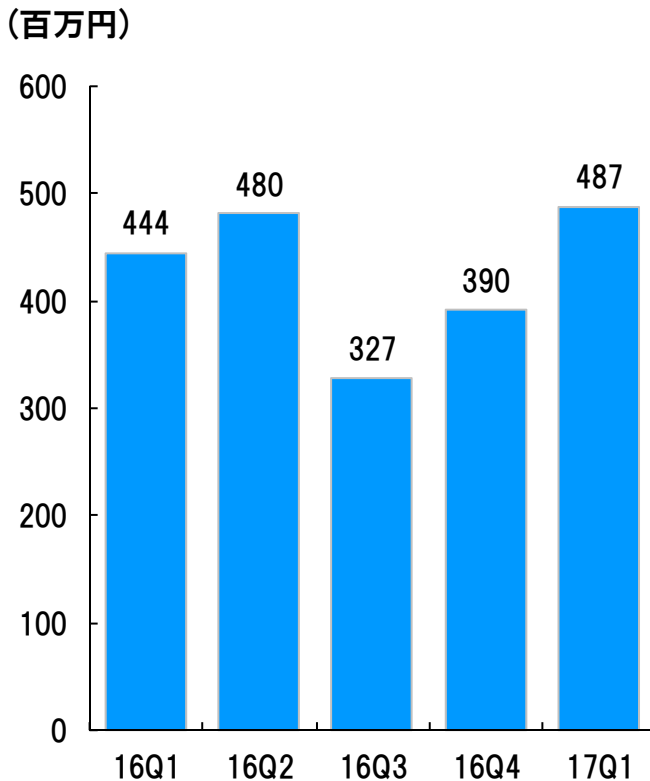
四半期業績の推移

- **産業機器**
ファクトリーオートメーション、計測機器、
オフィス機器向けが増加
- **通信機器**
ブロードバンド通信機器向けが減少
- **民生機器**
海外メーカー向けが大幅に減少

© 2017 PALTEK Corporation. All rights reserved.



デザインサービス事業の状況



FY2017Q1 Results Reporting

16

四半期業績の推移

- **産業機器、通信機器、映像/放送機器**
向けの案件が増加

© 2017 PALTEK Corporation. All rights reserved.

2

2017年12月期 業績予想

2017年12月期 業績予想の修正

為替変動の影響により利益が予想を上回って推移すると見込まれるため業績予想を修正

■ 第2四半期(累計)の見通し

- 売上高 : ほぼ見通しどおりに推移
- 営業利益 : 以下の理由により増加
 - 仕入先に対して保有する仕入値引ドル建債権の評価額の増加を含む為替変動の影響が+62百万円(第1四半期:+102百万円、第2四半期:△40百万円)発生すると見込むことで売上原価が押し下げられ、売上総利益が増加
 - 販売費及び一般管理費が減少
- 経常利益 : 第1四半期で為替差益が100百万円発生したことにより増加

■ 通期の見通し

- 第2四半期(累計)における業績変動を加味し、業績見通しを修正
- 下期(第3四半期、第4四半期)の数字は変更なし

| (百万円) | 2017年12月期業績予想 当初予想(2/9) | | | 2017年12月期業績予想 修正予想(5/9) | | | 上期増減 | | 通期増減 | |
|--------|----------------------------|--------|--------|----------------------------|--------|--------|------|-------|------|-------|
| | 上期 | 下期 | 通期 | 上期 | 下期 | 通期 | 増減額 | 増減率 | 増減額 | 増減率 |
| 売上高 | 16,500 | 17,500 | 34,000 | 16,700 | 17,500 | 34,200 | 200 | 1.2% | 200 | 0.6% |
| 売上総利益 | 2,200 | 2,475 | 4,675 | 2,260 | 2,475 | 4,735 | 60 | 2.7% | 60 | 1.3% |
| 売上総利益率 | 13.3% | 14.1% | 13.8% | 13.5% | 14.1% | 13.8% | — | — | — | — |
| 販管費 | 1,720 | 1,755 | 3,475 | 1,660 | 1,755 | 3,415 | △60 | △3.5% | △60 | △1.7% |
| 営業利益 | 480 | 720 | 1,200 | 600 | 720 | 1,320 | 120 | 25.0% | 120 | 10.0% |
| 営業利益率 | 2.9% | 4.1% | 3.5% | 3.6% | 4.1% | 3.9% | — | — | — | — |
| 経常利益 | 410 | 640 | 1,050 | 640 | 640 | 1,280 | 230 | 56.1% | 230 | 21.9% |
| 当期純利益 | 280 | 420 | 700 | 420 | 420 | 840 | 140 | 50.0% | 140 | 20.0% |

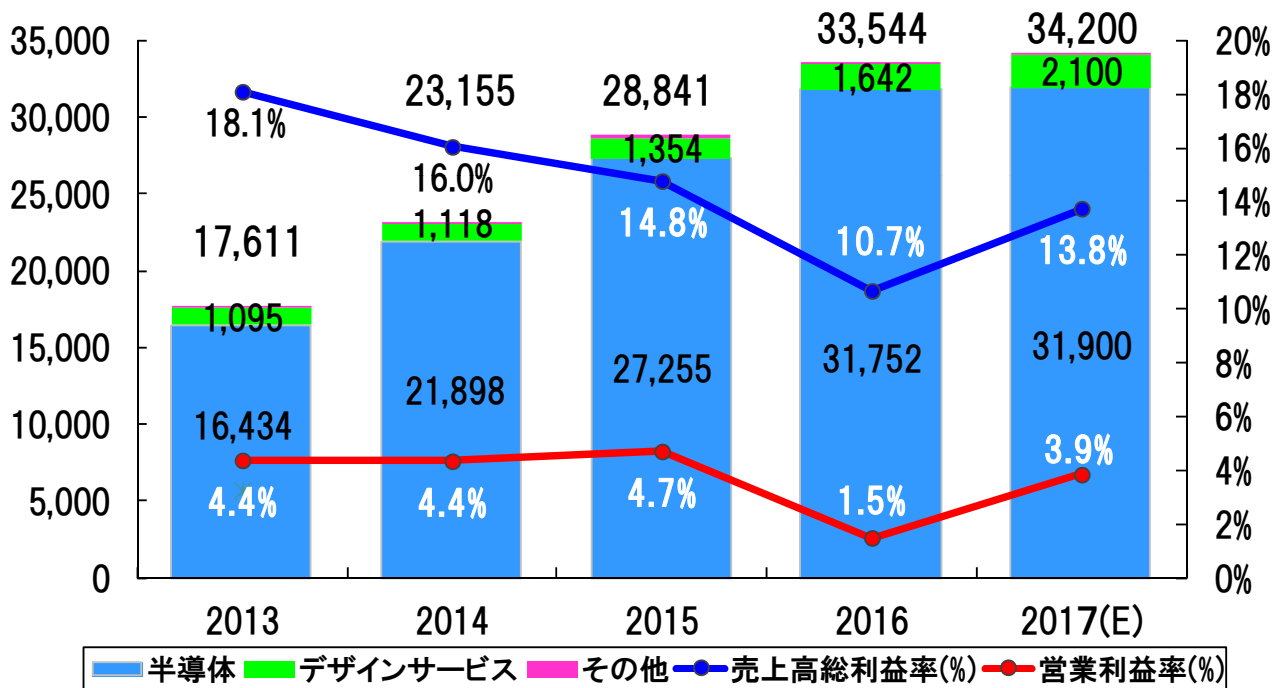
為替変動による業績見通しへの影響

- 2017年2月9日に発表した業績予想においては、為替レートを1ドル当たり113.81円と想定
- 第1四半期での影響
 - 年初における評価レートが円安に進行したことに伴い、仕入値引ドル建債権の評価額の増加を含む為替レート変動による影響が+102百万円発生
- 第2四半期での影響
 - 5月9日時点での売上総利益への為替の影響は、△40百万円と見込む（算出のために使用した為替レート:111.21円）
- なお、第3四半期以降の業績見通しについては、為替変動の影響を見込むことが困難なため、為替変動による影響を加味していない



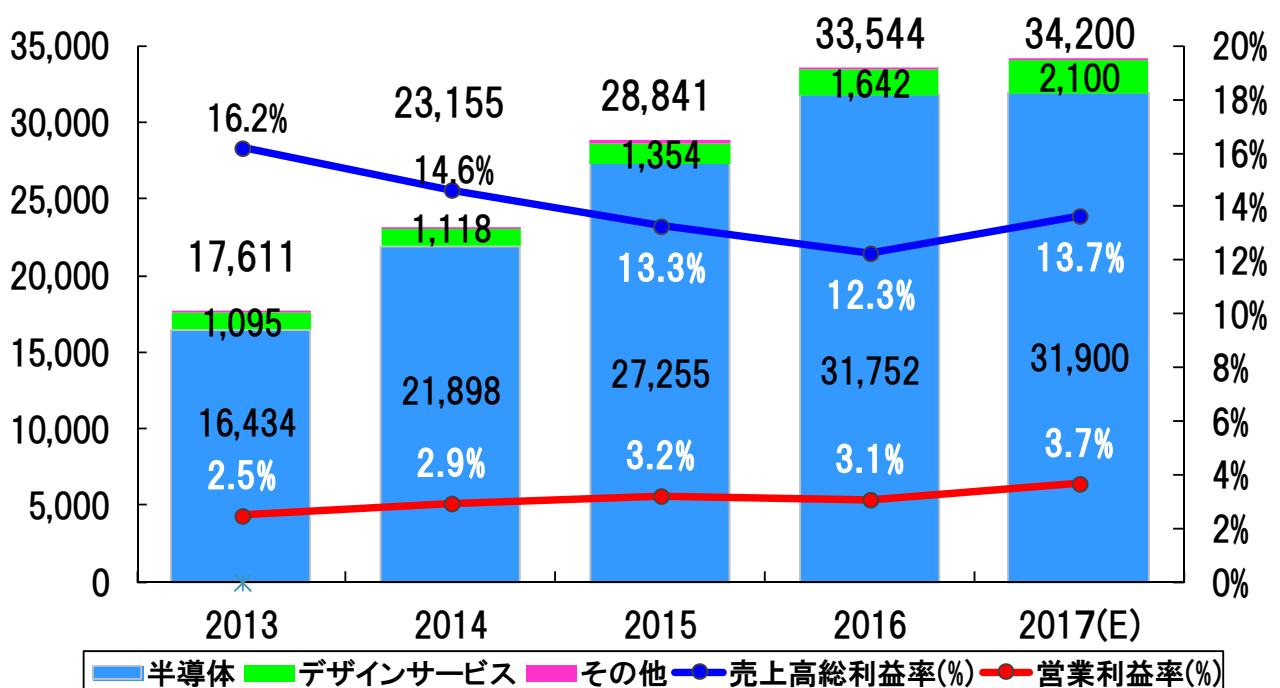
業績見通しの推移(連結)

(単位:百万円)



業績見通しの推移(連結) (為替の影響を除いた場合)

(単位:百万円)



3

事業の進捗状況

半導体事業

■ 事業環境

- 今後の成長市場が変化

PC/スマホ/民生機器  IoT/AI/医療機器/車載機器
通信機器(5G)/ロボット/産業機器/
放送・映像/宇宙・防衛/セキュリティ

- メーカー再編が加速

成長スピードを加速するため、大型M&Aが進行
残存メーカーは、成長市場に合わせ、新製品を続々リリース

■ 事業戦略

- 中心となる大手メーカー製品を中心に成長市場に提案加速
(Xilinx、Micron、NXP、Microchip、Linear Technology)
- 特徴ある有望製品を扱うメーカーの開拓
(日本、欧米、アジア)

■ FPGAでの取り組み



- データセンター・クラウド市場に向けた提案強化
 - 自社製品「DATA BRICK」などを活用(詳細後述)
- マルチ提案(複合商材)の強化
 - 医療機器、産業機器、通信機器、放送機器、データセンター向けに提案



- 最新FPGA(MPSoC)による付加価値提案の推進

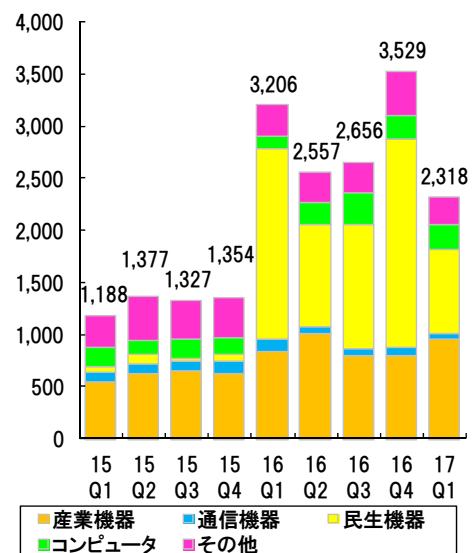


■ FPGAに次ぐ第2の柱となる製品の拡大

- 医療機器、IoT、通信機器、携帯端末、車載機器などに注力
- データセンター・クラウド市場の開拓
- 中小企業での新規案件の発掘



第2の柱となる主要4製品の売上推移

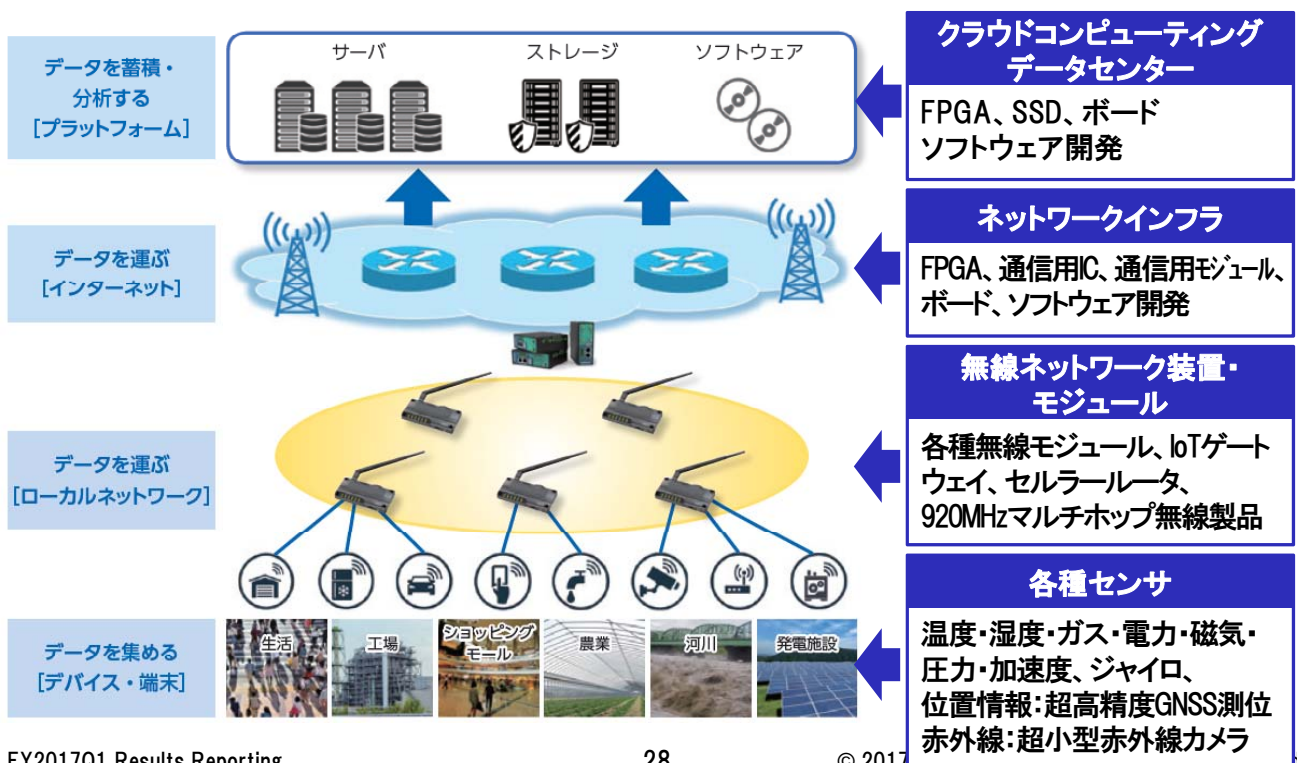


■ 産業用コンピュータモジュールの提供開始

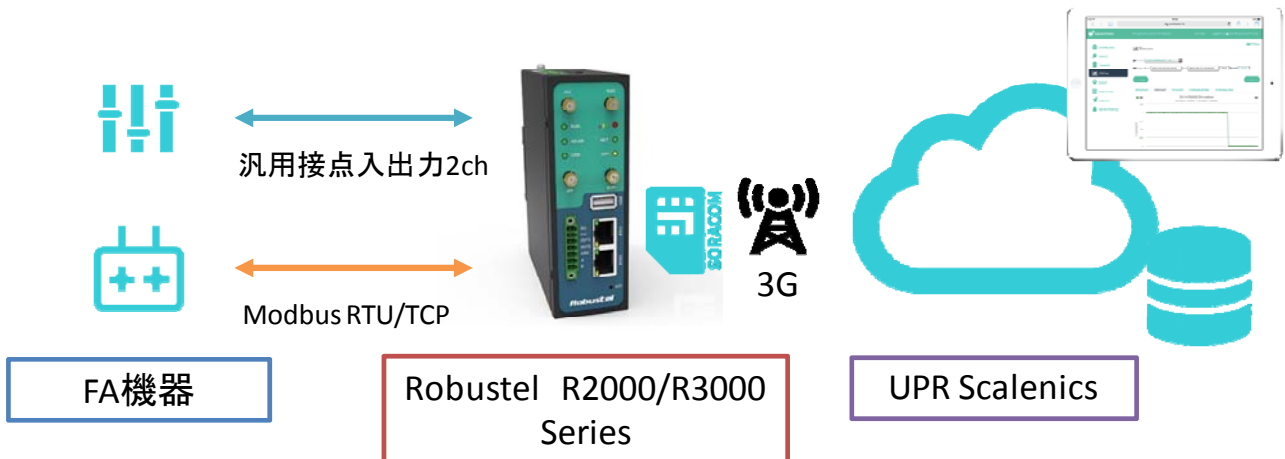
- congatec社と販売代理店契約を締結し、IoT、AI、医療機器、ロボット、FA市場にCPUモジュールを提供
- 「CPUモジュール」+「キャリアボード」で、CPU性能の変更による製品ラインナップの拡充が容易
- CPUモジュール分野におけるリーダー的企業で設計および品質について厳しく基準を設けて開発
- congatec社
 - ドイツの産業用コンピュータ・オン・モジュールの専門メーカー
 - CPUモジュール分野では、欧州地域でのトップシェアを維持
 - 医療機器、産業機器、自動車関連、アミューズメント関連など様々なアプリケーションに幅広く採用



IoTインフラ向けに端末からデータセンターまで製品ラインを拡充



- 産業機器向けIoTソリューションパッケージの販売開始
 - IoTクラウドプラットフォームを提供するUPR(株)とIoT向けデータ通信サービスを提供する(株)ソラコムと連携
- 工場などでのIoTシステムの導入を支援



■ 第6回 IoT/M2M 展 春に出展に出展

- 開催日 : 2017年5月10日(水)~5月12日(金)
- 場所 : 東京ビックサイト (ブース:西 13-9)



■ 主な展示品目

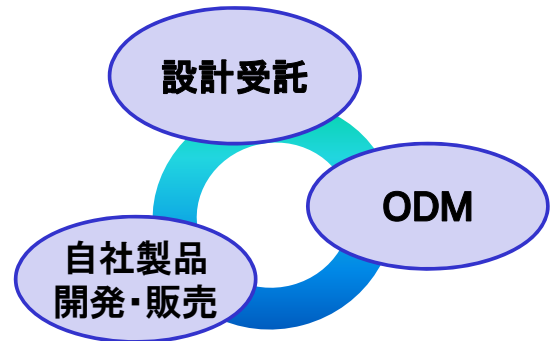
- 工場の遠隔監視などを実現する「インダストリアルIoTパッケージ」のデモンストレーション
- LPWA(Low Power Wide Area)のデモンストレーション
- FPGAを用いたIoTエッジコンピューティングのデモンストレーション
- iPhoneアプリと連動する非接触型呼吸センサ システムを用いたデモンストレーション
- FLIR社の遠赤外線カメラによる熱感知のデモンストレーション

■ 事業環境

- 顧客は開発リソースを得意分野に注力
- その他の開発部分をアウトソース

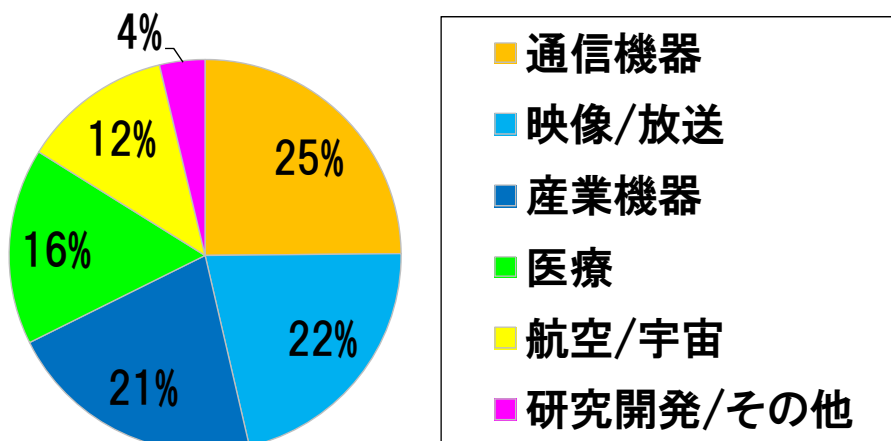
■ 事業戦略

- 設計受託の強化
- ODMの更なる展開
- 自社製品開発・販売
- ソリューションビジネスの展開



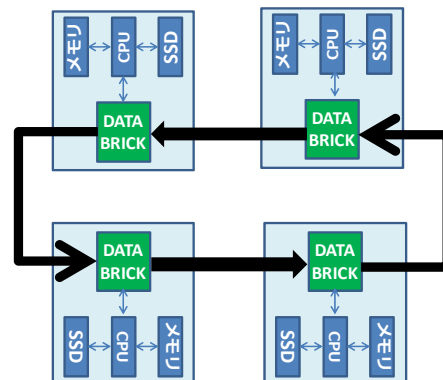
■ 通信機器、映像/放送機器、産業機器向けが増加

2017年第1四半期での用途別売上構成



■ 最新FPGAを搭載したFPGAコンピューティングプラットフォーム「DATA BRICK」の開発

- 機械学習、ビッグデータ分析、ビデオ処理などのワークロードを高速化するプラットフォームを提供
- システムのスループットを向上させ、システムコストおよび消費電力を低下



■ U-SDIインターフェースに対応した8K/4K映像機器開発プラットフォーム「Image CUBE2」を開発

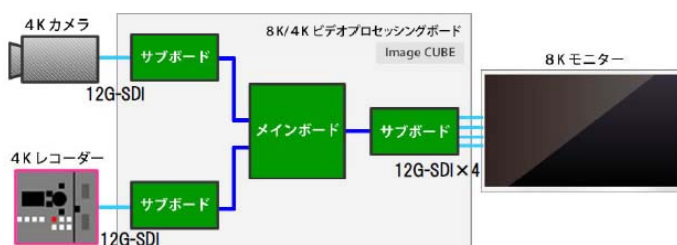
■ 2020年の東京オリンピックに向けた8K/4K映像機器の開発を加速

■ 活用事例

- 4K映像から8K映像への変換(アップコンバート)
- 8K映像に文字情報や他の映像を合成



システム構成例



活用例

4Kから8Kのアップコンバート

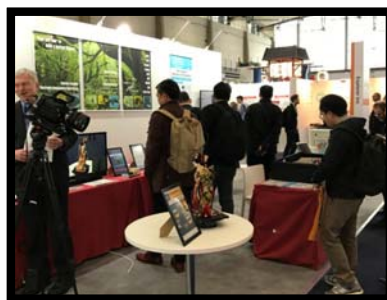


■ 世界最大級の展示会である国際情報通信技術見本市

- 開催日時 : 2017年3月20日(月)~24日(金)
- 会場 : ドイツ・ハノーバー、ハノーバー国際見本市会場

■ 自社製品の映像伝送装置やIoTソリューションを紹介

- H.265/HEVC 4K/2K(フルHD)対応映像伝送装置
- 8K/4K映像機器開発プラットフォーム「Image CUBE」
- GearBoxボード
- IoTソリューション

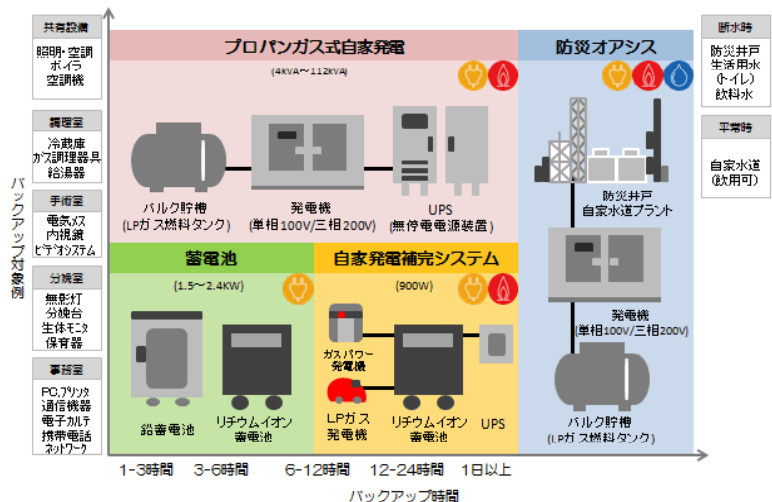


■ 事業環境

- 今後発生する可能性のある大規模災害に対して、防災・減災対応は必要

■ 事業戦略

- 停電対策システムの販売を強化
- ニーズに基づいた新製品ソリューションの構築
- 販売パートナー企業の開拓・強化



■ 扶洋会 秦病院 様（福岡県の総合病院）

【導入の背景】

- 既設の自家発電機では数時間程度しかバックアップできず、近年老朽化が進む
- 過去の増改築に伴い、現状の非常用電源では容量不足の不安

【導入の結果】

- 従来バックアップされていなかった箇所も含め2日以上をカバー
- 病院施設は第一種保安物件で、さらに災害バルク貯槽を導入しているため、ガス事業者としても特に優先的な対応が期待できる



病院外観

LPガス自家発電機(75kVA)と
災害バルク貯槽(1t)

■ 上勝町役場 様（徳島県）

【導入の背景】

- 役場が保有する既存設備では、一部を除き庁舎内の電力が確保できない
- 近年発生が予想される南海トラフ地震など大規模災害発生時において、災害対策本部として機能しない可能性があった

【導入の結果】

- 通常業務ができる電力を3日間バックアップすることにより、大規模災害時において役場を災害対策本部として機能させることが可能
- 徳島県LPガス協会との災害協定締結により3日以後における燃料確保体制も整った



役場外観



LPガス自家発電機(60kVA)と屋外制御盤

LPガス・シリンダポンプ
(50kg x 26本)

以下の担当までお問い合わせ下さい。

柴崎 由記（総務グループ IR担当）

株式会社PALTEK

〒222-0033

横浜市港北区新横浜2-3-12 新横浜スクエアビル

TEL :045-477-2016

FAX :045-477-2012

E-mail :ir@paltek.co.jp

本資料取り扱い上の注意点

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したもので、当社グループは、これらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合の対応に努める所存であります。

なお、本資料においては、将来に関する事項が含まれておりますが、当該事項は当連結会計年度末現在において判断したものであります。

また、実際の業績に影響を与えうるリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます。

- ① 国内エレクトロニクス業界の急激な景気変動や需要動向の変化
- ② 仕入先の代理店政策の見直しや再編等により取引関係の継続が困難となった場合
- ③ 不測の事態による当社グループの情報資産が流出した場合
- ④ 為替相場の急激な変動
- ⑤ 新規仕入先商品の立ち上がりの遅れが生じた場合
- ⑥ 顧客の日本国内での製品開発案件が更に海外へシフトし、当社グループの販売活動が及ばない地域へ移管された場合

参 考 資 料



2017年12月期 製品別業績予想

| (百万円) | 2017年12月期業績予想 当初予想(2/9) | | | 2017年12月期業績予想 修正予想(5/9) | | | 通期増減 | |
|----------|----------------------------|--------|--------|----------------------------|--------|--------|------|-------|
| | 上期 | 下期 | 通期 | 上期 | 下期 | 通期 | 増減額 | 増減率 |
| 半導体 | 15,300 | 16,300 | 31,600 | 15,600 | 16,300 | 31,900 | 300 | 0.9% |
| FPGA | 6,650 | 6,650 | 13,300 | 6,550 | 6,650 | 13,300 | — | — |
| 特定用途IC | 2,400 | 2,500 | 4,900 | 2,700 | 2,500 | 5,200 | 300 | 6.1% |
| 汎用IC | 1,400 | 2,000 | 3,400 | 1,600 | 2,000 | 3,600 | 200 | 5.9% |
| アナログ | 1,200 | 1,300 | 2,500 | 1,550 | 1,300 | 2,850 | 350 | 14.0% |
| メモリ | 3,650 | 3,850 | 7,500 | 3,100 | 3,850 | 6,950 | △550 | △7.3% |
| デザインサービス | 1,100 | 1,100 | 2,200 | 1,000 | 1,100 | 2,100 | △100 | △4.5% |
| その他 | 100 | 100 | 200 | 100 | 100 | 200 | — | — |
| 売上高合計 | 16,500 | 17,500 | 34,000 | 16,700 | 17,500 | 34,200 | 200 | 0.6% |
| 営業利益 | 480 | 720 | 1,200 | 600 | 720 | 1,320 | 120 | 10.0% |

- 為替変動により当社グループの利益は以下の4点で影響を受けます

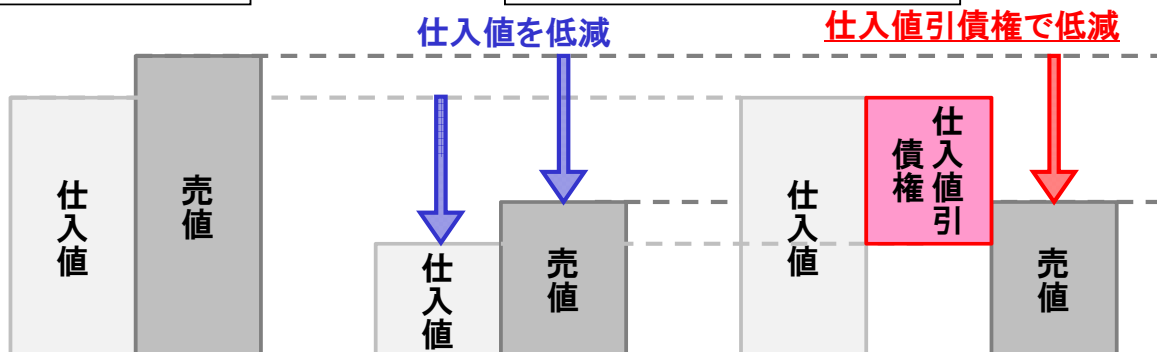
- ① 仕入値引ドル建債権の為替変動による影響
- ② 調達在庫の為替変動による影響
- ③ 決済時のドル調達レート変動による影響
- ④ ドル建売掛金入金時のレート変動による影響

【仕入値引ドル建債権の為替変動による影響】

- 当社が仕入先に対して保有する『仕入値引ドル建債権』が、為替レートの変動により評価額が増減することで、業績に大きな影響を与える
- 仕入値引ドル建債権について：
 - 量産案件によっては、通常価格よりも低い価格での販売を要請されることがある
 - その場合、仕入先との間で仕入価格の低減交渉を行う
 - その実現方法は、「仕入値自体の低減」と「仕入値引債権の付与による低減」

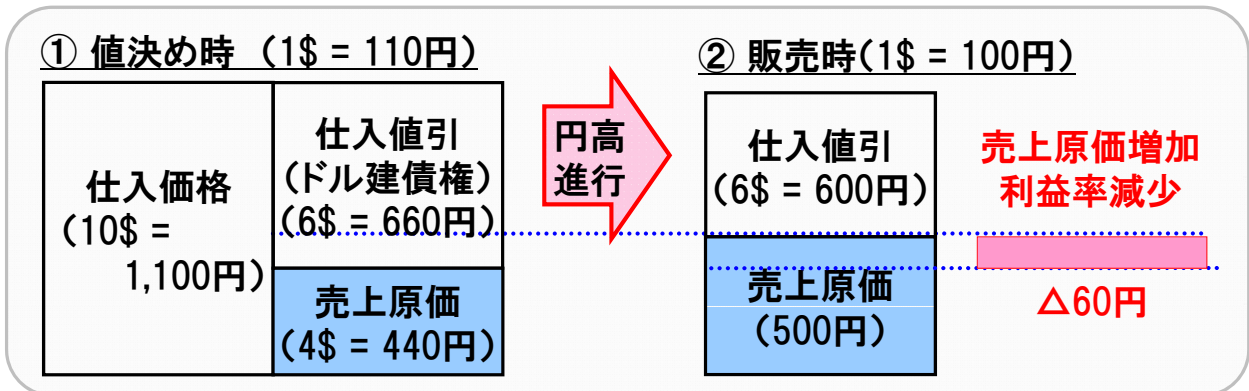
通常価格で取引

量産案件では値引価格で取引



- 仕入値引債権の評価額の増減は、値決め時と販売時の為替レートの差により生じる
- そのため、急速に円高が進行すると、為替レートの差が大きく生じるため、仕入値引債権の評価額が大幅に減少
- これにより、売上原価が増加し、売上総利益が減少

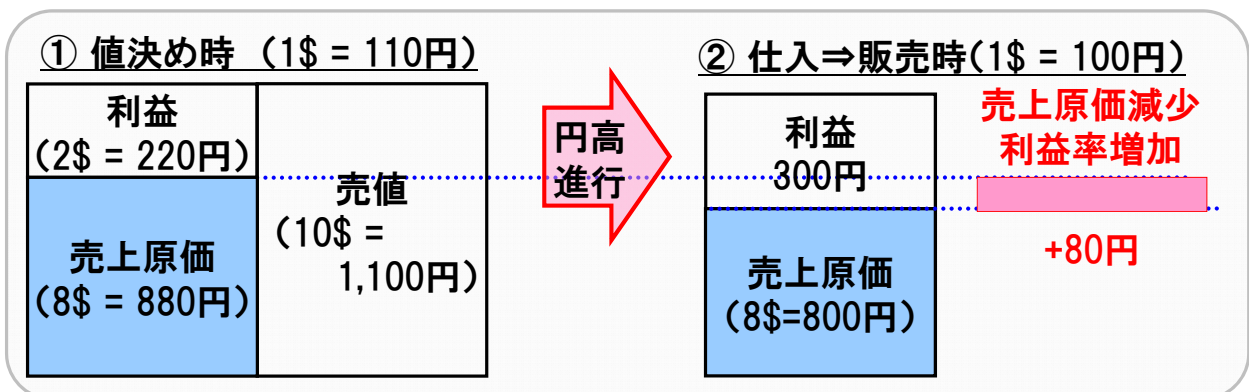
例：仕入れ価格10ドルの製品を販売する際の売上原価の変化



【調達在庫の為替変動による影響】

- 海外から仕入れたドル建の製品において、為替レートが円高に進行することにより、売上原価が減少し、売上総利益は増加

例：仕入れ価格10ドルの製品を販売する際の売上原価の変化

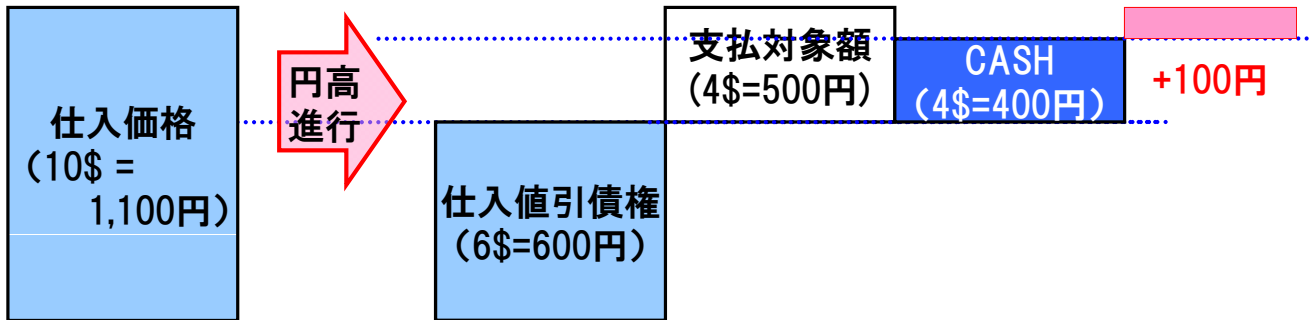


為替変動による影響の発生要因③

【決済時のドル調達レート変動による影響】

- 支払を行う際に円高に進行していた場合、ドルを調達する金額が少なくなるため、決済差額が生まれ、為替差益を計上することとなる
- 一方、円安に進行した場合は、為替差損を計上することとなる

① 仕入時 (1\$ = 110円) ② 販売・支払時 (1\$ = 100円)

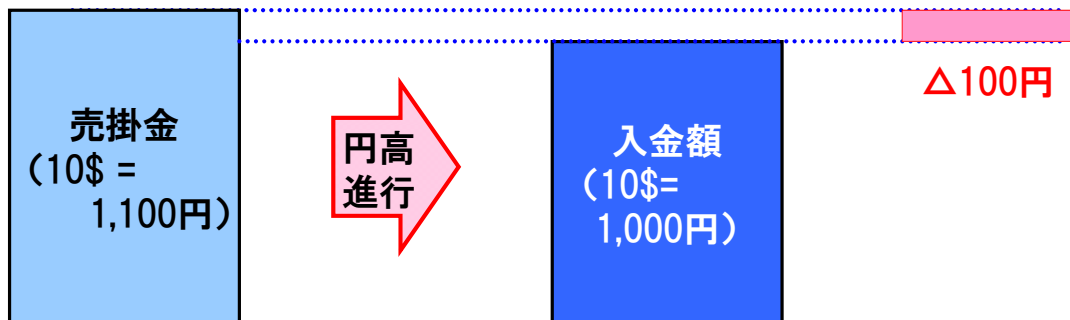


為替変動による影響の発生要因④

【ドル建売掛金入金時のレート変動による影響】

- ドル建売掛金の入金がある場合には、円高に進行するとマイナス、円安に進行するとプラスの影響が発生する(営業外の為替差損益)
- 当社はこのリスクを限定的にするために、為替予約を行っている

① 販売時 (1\$ = 110円) ② 入金時 (1\$ = 100円) 決済差額



| 開示区分 | 内容説明 |
|------------|---|
| 半導体事業 | 半導体及び関連製品の販売、技術支援 |
| FPGA | ザイリンクス社のFPGAを中心とするソリューション |
| 特定用途IC | 特定用途に特化した半導体を中心とするソリューション (例:通信向け、インタフェース向け、携帯端末向け等) |
| 汎用IC | NXPセミコンダクターズ、マイクロチップテクノロジー社等の汎用ICを中心とするソリューション |
| アナログ | リニアテクノロジー社等のアナログ半導体を中心とするソリューション |
| メモリ | マイクロンテクノロジー社等のメモリを中心とするソリューション |
| デザインサービス事業 | 受託開発、ODM/EMS/OEM、自社製品の販売 |
| その他 | 上記のカテゴリに属さないソリューション |